

JAXA の井上一理事が資料 24 - 2 (ISRO との合意) を説明した後、活発な質疑応答があった。(一昨年 10 月に JAXA/ISRO 間で締結した「協力協定」に従って、具体的な協力案件を検討してきた結果、ISRO が開発する Astrosat に X 線望遠鏡校正技術の支援など、「宇宙 X 線観測分野での協力に関する合意文書」を締結した。)

池上: 話は非常に結構だと思うのですが、インドは、例の、原爆実験の後、サイエンスの分野で余り、特にアメリカとインドの間は協力しないという話を聞いたのですけれど、日本もそうだったのですが、**其れは一応クリアできたということ¹**。

JAXA 井上: あ。

池上: 特に文句を言う人は居なかったわけですね。

JAXA 井上: そうですね。我々研究者のレベルでは、もう、従来から、我々 X 線天文の分野ではむしろ協力が深まってきていた背景はありました。仰っているようなところは、実は研究

¹ 小職はインドについて詳しくないが、原爆実験を行ったことに対する一時的な制裁処置ではないと思う。パキスタンとの国境紛争を抱え、核実験と衛星打ち上げを行なった、核弾頭搭載大陸間弾道弾を作る事の出来る国である。国の戦略に核による抑止力を入れていることが明らかで、極めて慎重な交流を行う必要がある。外交の専門家の点検が必要である。

また、X 線望遠鏡についても知らないことばかりであるが、その校正技術とは、軍事転用の可能性は無いのか。また、そのことを専門家に点検して貰っているのか。

者間が行き来する面では若干障害になるようなものが一時期ありましたけれども、最近はその処も余り感じては居りませんでした。

青江: (聞こえない) だったんじゃないの。

池上: いえいえ。あれは、もう。特に物理関係は完全に切れた。アメリカが切ったんですよね。今、アメリカは、最近、ケヤクンドウ(?) するようになって、流れが変わって来たのかもしれない。

JAXA 井上: 一時期、インドの研究者の方が日本に来るときは、若干の抵抗がありました。今は、もう、殆ど、そんなこと無く。

池上: ですから、逆に、インドサイドから見ますと、日本てのは遠くなっちゃったんです。日本とっても余り、... あそこは優秀な物理屋さん (ムニャムニャ) こう言う戻る方向ってのは非常に良い。具体的なプロジェクトでやることは、彼らは歓迎すると思うんですよ。

青江: JAXA-ISRO という、なんでしたか、其れは枠組み協定ですか。枠組み協定みたいなものは無かったですか。

JAXA 井上: 研究者レベルは、実は、日印の繋がりというのも、大先輩である小田先生の時代から、太いものがあったのですけれども、研究者間というのは協定などは無く、進められるもので。

青江: 機関間協約って無かった。

JAXA 井上: エーと、この種のものは無かったと思います。

JAXA 国際部: インドの機関間協定、包括的な協定は、一昨年の 10 月に締結されております。其処で、衛星リモートセンシン

グ、衛星通信、宇宙科学、についての協力を作っていくと、
青江:付き合っったんでしょ。細々かどうかは別として。

JAXA 国際部:まあ、まだ2年程ですね。協定を作ってから、こう
いう協力を探そうということで、こういう協力テーマも浮かび
上がってきました。

JAXA 井上:学術研究の方では、所謂、各術振興会がやっている
ような、国際協力枠組みたいのは有りましたけれど、この種
のものは、

池上:あの、私、1年半ぐらい前に、やっぱインドに行きましてね、
向こうサイドのほうが、「物理学者の交流が非常に難しい」と
言ってましたよ。もう一つ向こうの人が言ったのは協力協定、
協定結んでも、具体的なプロジェクトが、中々日本とは上手
く行かない、此れは衛星の分野に(聞き分けられない)ワー
ク・トゥ・ゲザーで具体的なテーマで研究レベルでやるんだ
ったら、具体的なテーマで一緒に仕事をするということをや
ると向こうはシンメッチュー(?)である。

松尾:枠組みを作ってから探そうというのであれば、他のものはど
ういう風に動いているのですか。

JAXA 国際部:まあ、今、地球観測で、センチネルアジア²のところ
では、具体的な協力を始めておりますし、それ以外にも
APRSAF を共同で、どんな風にやろうとか、

松尾:APRSAF がらみで。

JAXA 国際部:それ以外には、色々提案としては、向こうから人材
交流と、共用デスク(?)

森尾:因みに、ISRO の年間予算はいくら位ですか?

JAXA 国際部:あの、すみません。

池上:聞いた話では、実質的には、日本とほぼ並んだと、カンタ
(?)エーッとねえ、今年の春にミッションが来てるんです。そ
の時その様な話で。だから、かなり金を入れている。

² 既に進めているプログラムの中でやるのが適当であろう。進展
が遅くて、相手が苛々する位が丁度良い。下心を持って近付く者
は、苛々することで本心を曝け易くなる。